

線形代数及び演習 II・自習シート

問1 V を線形空間とする. $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ が線形独立ならば, m より小さい自然数 r に対して $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$ も線形独立であることを証明せよ¹⁾.

解答例 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ が線形独立なので, 線形独立の定義から, もしも

$$c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + \dots + c_m\mathbf{u}_m = \mathbf{0}$$

ならば, $c_1 = c_2 = \dots = c_m = 0$ が成立する. ここで, 主張を背理法で示す. $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$ (ただし $1 \leq r < m$) が線形従属であると仮定する. すると判定条件を考えると, もしも

$$c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + \dots + c_r\mathbf{u}_r = \mathbf{0}$$

ならば $c_1 = c_2 = \dots = c_r = 0$ 以外にも上式を成立させる定数が存在する. それを d_1, d_2, \dots, d_r とおいてみる²⁾. つまり

$$d_1\mathbf{u}_1 + d_2\mathbf{u}_2 + \dots + d_r\mathbf{u}_r = \mathbf{0}$$

を満たしている. そこで, $d_{r+1} = d_{r+2} = \dots = d_m = 0$ とおくと

$$(d_1\mathbf{u}_1 + d_2\mathbf{u}_2 + \dots + d_r\mathbf{u}_r) + d_{r+1}\mathbf{u}_{r+1} + \dots + d_m\mathbf{u}_m = \mathbf{0} + 0\mathbf{u}_{r+1} + \dots + 0\mathbf{u}_m = \mathbf{0}$$

となり, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ が線形独立かどうかの判定条件を満たしていることが分かる. 仮定より $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ は線形独立であったので, $d_1 = d_2 = \dots = d_r = d_{r+1} = \dots = d_m = 0$ が成立するが, d_1, d_2, \dots, d_r の少なくともどれか1つは0ではなかったはずなので矛盾. よって m より小さい自然数 r に対して $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r$ も線形独立である. \square

問2 V を線形空間とする. V の元に対する次の命題の真偽を調べ, 真ならば証明を, 偽ならば反例をあげよ.

- (1) $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ の中に $\mathbf{0}$ (ゼロ元) が存在するならば, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ は線形従属である.

解答例 (真) 例えば $\mathbf{u}_1 = \mathbf{0}$ とする³⁾. もしも,

$$c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + \dots + c_m\mathbf{u}_m = \mathbf{0}$$

と仮定すると,

$$c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + \dots + c_m\mathbf{u}_m = c_1\mathbf{0} + 0\mathbf{u}_2 + \dots + 0\mathbf{u}_m = \mathbf{0}$$

提出する場合は, 解答例を参考にして自分で採点をしておくこと. 提出しなくても試験で 60 点以上取れば合格です.

1) 線形独立であることを背理法で示してみよう.

2) このうち少なくともどれか1つは0ではないということ.

3) 他の番号であっても証明は同じなので1番目が $\mathbf{0}$ の場合だけを示せば十分である.

なので, c_1 として 0 以外を選んできて, 例えば $c_1 = 1$ として $c_2 = c_3 = \cdots = c_m = 0$ を選ぶと

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + \cdots + c_m \mathbf{u}_m = 1\mathbf{0} + 0\mathbf{u}_2 + \cdots + 0\mathbf{u}_m = \mathbf{0}$$

が成立するので, $c_1 = c_2 = \cdots = c_m = 0$ 以外にも上式を成立させる定数が存在したことになる. よって $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_m$ は線形従属である. \square

(2) \mathbf{u}_1 と \mathbf{u}_2 が, \mathbf{u}_2 と \mathbf{u}_3 が, \mathbf{u}_3 と \mathbf{u}_1 がそれぞれ線形独立ならば, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ も線形独立である⁴⁾.

解答例 (偽) $\mathbf{u}_1 = {}^T(1, 0)$, $\mathbf{u}_2 = {}^T(0, 1)$, $\mathbf{u}_3 = {}^T(1, 1)$ を考えると \mathbf{u}_1 と \mathbf{u}_2 が, \mathbf{u}_2 と \mathbf{u}_3 が, \mathbf{u}_3 と \mathbf{u}_1 がそれぞれ線形独立である. しかし,

$$\mathbf{u}_3 = \mathbf{u}_1 + \mathbf{u}_2$$

と線形結合で書けるので $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ は線形独立ではない. \square

⁴⁾まずはざっくり色で考えてみよう. 赤と青, 青と紫, 紫と赤はそれぞれ線形独立であるが...